

---

工学院大学大学院  
**GUIDEBOOK DIGEST**

Kogakuin University Graduate School

---

機械工学専攻

化学応用学専攻

電気・電子工学専攻

情報学専攻

建築学専攻

# 工学研究科の理念・目的

## 教育研究上の目的

工学研究科は、独創的かつレベルの高い研究を展開して社会や人類に貢献するとともに、各専攻分野の原理・原則に関する深い知識と応用力を有し、学際的な視野にたつて判断できる技術者や研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

それを踏まえ、修士課程では専門教育に立脚した専門技術者や研究者を育成する。

また、博士後期課程では先端研究領域を切り開くことのできる高度専門技術者や上級研究者を育成する。

現在、高等教育を受ける人の増大に伴い、大学で学ぶ意味がかなり多様化しているという現状にあります。これを受けて、大学自身が自らの理念目標を掲げて、それぞれの大学のめざす方向のなかでの多様化・個性化を図りつつ発展していくことの必要性が叫ばれています。したがって、学部卒業生が、研究を中心に深い専門領域を学ぶ大学院(修士ならびに博士後期課程)も、このような状況を反映して高度化と多様化に迫られています。一方、各自の個としての生き方が問われる現代においては、大学院で学ぶ個人(個)の、より高度なレベルへの到達という視点での大学院の高度化と改革も必要とされています。従来から大学院は、高度な知識を身につけたゼネラリストの育成を意図した修士(博士前期)課程と、教育・研究のスペシャリストを育成する博士(後期)課程とに分けられ、各々の機能の充実と目的の達成を追求してきました。これまで多くの場合、工科大学の学部卒業生は、知識の集約がはかられた学部教育の基礎のうえに、特に将来、研究部門の一員として社会で活躍するためのライセンスを獲得する意味を含め、先端的な研究への参加をめざし大学院への進学を希望してきました。

また、現在のような展開の著しく速い知識基盤社会において、科学技術部門に関与する個人にとっては、自己の知識体系を最新のレベルに再構築しながら同時により高度な先進的知識を獲得し、課題解決能力・リーダーシップ能力の涵養など自己を質的にも高められる可能性を見いだせる場としての大学院の魅力がクローズアップされています。

以上のように、大学院修了生に対する社会からの期待は、各専門分野における深い知識と応用力を有する技術者・研究者としての自立とリーダーシップを有する人材にあります。このような状況に鑑み、工学院大学大学院工学研究科は教育研究上の目的として前述の項目を掲げています。

## 大学院の特色

### 多彩な教授陣ときめ細かい指導

それぞれの専攻で多彩な教授陣が、豊富な経験を生かし、授業科目を通して高度な教育を行っています。また、最先端の研究に必要とされる高度な測定装置・機器など充実した研究環境のもと、学生とともに日夜研究活動に取り組んでいます。複数指導教員制度により学習面でも研究面でもきめ細かい指導を行っています。

### 低く抑えた学費とTA制度

工学院大学大学院では、向学心ある人々に勉学の機会を広く提供するため、他の大学院と比べて学費を低めに設定しています。また、TA(ティーチングアシスタント)制度を実施しています。学部生の授業において教員の授業サポートを行い、教育現場を理解する機会を提供するとともに、これに対する手当の支給により、在学中の経済的負担の軽減を図っています。

### 外国の大学との交流

毎年多くの大学院生が支援を受けて国際学会へ参加しています。また、海外協定校との共催シンポジウム参加の機会や交換留学制度もあります。そのため国際的に通用するプレゼンテーションやディスカッション能力を育成するネイティブスピーカーによる授業科目を設けるなど教育支援も行っています。

### ディプロマット留学(本学独自)

留学において課題となる授業料と英語力を大幅に軽減し、本学大学院生(本学学部4年生のうち、大学院進学予定で大学院科目先行履修許可生を含む)がアカデミック・ディプロマット(学術の外交官)として、米国協定大学において自身の専攻に関わる学部授業科目を履修し、その分野の日本と異なる授業の捉え方や取り組み方、教員の指導方法や考え方等について研修を受けながら、協定大学において学術交流し、より広い視野や複眼的な思考を持つエンジニアを育成するために開発された本学独自のプログラムです。なお、本プログラムの対象研究室は、本学ホームページの「研究室一覧」ページをご確認ください。「ディプロマット留学対象研究室」のバナーが付いている研究室が対象となります。プログラムの詳細については、ディプロマット留学パンフレット、本学ホームページ等でご確認ください。

# 機械工学専攻

MECHANICAL ENGINEERING

修士 博士

## 教育研究上の目的

本専攻は、エネルギー工学、材料・加工工学、設計工学、計測制御・ロボティクス、システム工学の機械工学の基礎分野の知識を十分習得した上で、さらに高度な先進化・統合化された知識・技術を習得し、自立して国際的に活躍できる広い視野を持った技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

## 研究テーマ

エネルギー工学	材料・加工工学	設計工学	計測制御・ロボティクス	システム工学
<ul style="list-style-type: none"><li>● スポーツ用具とスキルの最適空力設計</li><li>● 熱機関におけるカーボンフリー燃料と異常燃焼</li><li>● 軸流ファンに生じる不安定流れの研究</li><li>● 熱分解反応によるバイオマス燃料化</li><li>● バイオ燃料で動作する燃料電池の開発</li><li>● 非接触での流体制御技術の開発</li><li>● 次世代航空機・火星探査航空機の研究</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● CFRPを用いたトライポマテリアルの開発</li><li>● 発泡金属の製造および成形</li><li>● 複雑形状部品の精密鍛造・転造加工</li><li>● 3次元微細形状の精密加工</li><li>● 自己治癒機能などを有した新規機能材料の開発</li><li>● 誘導加熱曲げ技術開発</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 人頭部衝撃解析</li><li>● 信頼性の高い異材接合体の開発</li><li>● 医療用インプラントデバイス等の高性能設計</li><li>● 機械の振動・騒音の低減</li><li>● 吸音率の予測および吸音材料の設計</li><li>● スポーツにおける衝突および動的挙動の解明</li><li>● 近くにだけ音を届けられるスピーカ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 成長するヒューマノイド・ロボット</li><li>● ロバスト・適応制御理論</li><li>● スマートデバイスで生活を豊かに</li><li>● 人工心臓の心拍数制御</li><li>● 災害対応ロボット</li><li>● 月面探査ロボット</li><li>● 土木建築ロボット</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 昆虫規範型マイクロロボットの研究</li><li>● コーナリング限界の横滑り制御システム</li><li>● 顕微作業支援システムに関する研究</li><li>● マーカレスモーションキャプチャ法</li><li>● 統合交通システムの計画・評価</li><li>● マイクロ流体細胞培養技術</li><li>● 自動運転自動車のためのインタフェースの開発</li><li>● センサ・フュージョンによる姿勢推定</li></ul>

## 取得可能な教員免許状・学芸員資格

修士の学位を有する者で所定の条件を満たした場合、中学校・高等学校教諭の「専修免許状」を取得が可能です。専修免許状の取得には一種免許状の取得に必要な単位を修得していることが必要です。学部の科目履修生としてその単位を修得することができます。

- 中学校教諭専修免許状（技術）
- 高等学校教諭専修免許状（工業）
- 学芸員資格\*

※ 学芸員資格の取得には、学芸員課程の履修が必要ですが、学部の科目等履修生として履修することができます。

# 化学応用学専攻

APPLIED CHEMISTRY AND CHEMICAL ENGINEERING

修士 博士

## 教育研究上の目的

本専攻は、人間生活を豊かにする高度な物質変換技術、生命・医薬・食品分野に必要なバイオテクノロジーの推進、環境調和材料の開発、省資源及び省エネルギー技術、自然生態系との共存のための環境システムづくりという重要課題を「化学」を基盤に解決するため、従来の専門分野から一歩出た境界領域まで挑戦し、対応することのできる技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

## 研究テーマ

生命分野	有機・高分子分野	無機・金属分野	環境・システム分野
<ul style="list-style-type: none"><li>● FASCIAの線維構造の解析</li><li>● ナマココラーゲン線維による細胞塊形成</li><li>● ほ乳類キチナーゼの生物医学的役割</li><li>● 加水分解酵素の構造と機能</li><li>● 光合成微生物による有用物質生産</li><li>● 微生物による環境浄化システムの開発</li><li>● 海洋生物や昆虫に由来する新規有用生物活性物質の探索研究</li><li>● ケミカルバイオロジー研究を基盤とした新規生物活性物質の機能解明研究</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 独自に開発した連続環化反応を利用した多環性化合物の合成研究</li><li>● 独自の鎖状制御法に基づくマクロライド天然物の合成研究</li><li>● <math>\alpha</math>-ジアソエステルからの新規反応開発</li><li>● ヘリセン類の合成</li><li>● 新規生活活性化化合物の創生</li><li>● 高圧水素曝露によるゴム材料の高次構造変化</li><li>● 高熱伝導高分子、液晶性高分子</li><li>● ポリマーブラシ薄膜を用いた繰り返し接着機構の開発</li><li>● アミノ酸を基盤とする双性イオン型高分子電解質ブラシによる防汚性表面の創製</li><li>● 網羅的成分分析に基づく食品の質的評価</li><li>● 食品由来機能性成分の生合成と開発</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ガラス/セラミックスの構造と物性</li><li>● 全固体ナトリウムイオン電池用超イオン伝導性結晶化ガラスの開発</li><li>● 超高齢化社会に向けた医用材料（バイオマテリアル）の開発</li><li>● 低環境負荷材料（エコマテリアル）の創製</li><li>● パルプ金属のアノード酸化と酸化膜の機能化</li><li>● 湿式プロセスに基づく半導体のナノ/マイクロ加工</li><li>● ナノピペットを用いた局所プローブの開発</li><li>● アルカリハライド溶液への金の溶解</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 膜を利用した水処理システムの開発</li><li>● 下排水処理のための膜分離活性汚泥法の開発</li><li>● 水素分離用シリカ膜の開発とこれを用いた高純度水素製造用膜反応器の開発</li><li>● 素材の高性能化と長寿命化を兼ね備えたエアフィルタの開発</li><li>● 超音波照射を用いた環境中VOCと超微粒子の低減</li><li>● 燃料電池用高分子電解質の開発とシミュレーション</li><li>● リチウム空気電池の開発とシミュレーション</li><li>● 大容量や高安全などの優れた性能を有する蓄電池の材料研究</li><li>● 担持金属触媒の触媒作用</li><li>● X線吸収分光法による固体触媒の分析</li><li>● 汚泥灰からリン回収とリン系肥料の製造によるリン循環システムの構築</li><li>● 海洋肥料の開発と海への施肥による海藻の森の実現と、海の砂漠化防止</li></ul>

## 取得可能な教員免許状・学芸員資格

修士の学位を有する者で所定の条件を満たした場合、中学校・高等学校教諭の「専修免許状」を取得が可能です。専修免許状の取得には一種免許状の取得に必要な単位を修得していることが必要です。学部の科目履修生としてその単位を修得することができます。

- 中学校教諭専修免許状（理科）
- 高等学校教諭専修免許状（理科）
- 学芸員資格\*

※ 学芸員資格の取得には、学芸員課程の履修が必要ですが、学部の科目等履修生として履修することができます。

# 電気・電子工学専攻

ELECTRICAL ENGINEERING AND ELECTRONICS

修士 博士

## 教育研究上の目的

本専攻は、電気エネルギーシステムやエコロジー、情報技術(IT技術)に関わる基盤・要素技術など、社会から要請される高度な専門領域を学び、さらに研究活動を重視し、自ら考える能力、問題発見能力、問題解決能力を持つ技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

## 取得可能な教員免許状・学芸員資格

修士の学位を有する者で所定の条件を満たした場合、中学校・高等学校教諭の「専修免許状」を取得が可能です。専修免許状の取得には一種免許状の取得に必要な単位を修得している必要があります。学部の科目履修生としてその単位を修得することができます。

- 中学校教諭専修免許状(数学)
- 高等学校教諭専修免許状(数学・工業)
- 学芸員資格\*

※ 学芸員資格の取得には、学芸員課程の履修が必要ですが、学部の科目等履修生として履修することができます。

## 研究テーマ

エネルギー変換	計測・制御	情報・通信	電子デバイス
<ul style="list-style-type: none"><li>● 自動車・交通システム制御</li><li>● 電気鉄道・運行制御</li><li>● 新型モータ・非接触支持</li><li>● 新しい太陽電池</li><li>● 脱炭素化をめざす電力システム</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 超電導体評価・非接触計測</li><li>● ロボット開発</li><li>● ナノ領域計測</li><li>● 生体生命情報</li><li>● 可視光通信・光伝送</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 光・無線ネットワーク</li><li>● ネットワークコンピューティング</li><li>● 通信ソフトウェア</li><li>● AI画像認識</li><li>● インターネット情報検索</li><li>● 符号化・誤り制御</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 各種ディスプレイ</li><li>● 半導体材料</li><li>● 有機材料</li><li>● 通信光源</li><li>● 環境浄化材料</li><li>● 磁性応用</li><li>● 機能性薄膜、薄膜デバイス応用</li></ul>

# 情報学専攻

INFORMATICS

修士 博士

## 教育研究上の目的

本専攻は、情報を単に工学的な一要素として取り扱うのではなく、基礎、工学、社会科学、これらの融合/境界領域、未踏分野の5本柱を立て、ハードウェアからソフトウェアまで幅広くカバーすることのできる技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

## 取得可能な教員免許状・学芸員資格

修士の学位を有する者で所定の条件を満たした場合、中学校・高等学校教諭の「専修免許状」を取得が可能です。専修免許状の取得には一種免許状の取得に必要な単位を修得している必要があります。学部の科目履修生としてその単位を修得することができます。

- 中学校教諭専修免許状(数学)
- 高等学校教諭専修免許状(数学・情報)
- 学芸員資格\*

※ 学芸員資格の取得には、学芸員課程の履修が必要ですが、学部の科目等履修生として履修することができます。

## 研究テーマ

基礎	工学	社会科学	融合・境界	未踏
<ul style="list-style-type: none"><li>● 数学、数理学、解析学</li><li>● ソフトウェア工学、要求工学</li><li>● ソフトウェア自動チューニング</li><li>● 数値シミュレーション、並列処理</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 複数センサの情報統合</li><li>● 音響処理、応用音響</li><li>● 生体計測・データ解析</li><li>● 画像復元技術と応用</li><li>● センシングとフィードバックによる上達支援</li><li>● 映像処理・符号化、臨場感映像表現</li><li>● ヒューマン・コミュニケーション、画像処理、意図・行動理解</li><li>● 音響メタマテリアルの設計、古楽器の形状保存と復元、建造物のパッシブ診断、残響伝達関数の解析</li><li>● 不確実状況下での予測モデルと意思決定</li><li>● アルゴリズム理論、暗号理論、ゲーム理論</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● AIによるサイバー攻撃の検知と防御</li><li>● 認証と識別</li><li>● 実世界データ分析</li><li>● シミュレーションによる社会科学分野の課題解決</li><li>● 人間行動、企業行動、政策のミクロ経済分析・統計分析</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● マルチメディアデータの解析</li><li>● 人間の視聴覚、音声、言語処理を含めたコミュニケーション研究</li><li>● 感性工学、コンテンツ設計、アプリケーション開発</li><li>● 画像認識、対話ロボット、HRI、HCI</li><li>● 情報検索、情報推薦、ユーザインタラクション</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 分散システム</li><li>● 顔認識、顔生成、顔データベース、VR</li><li>● 障害者支援、メタバース応用</li><li>● 視覚工学、色覚の個人差、空間認識、視線行動</li><li>● データマイニングと可視化、3次元アニメーション表示</li></ul>

# 建築学専攻

ARCHITECTURE

修士 博士

## 教育研究上の目的

本専攻は、少子高齢化、情報化社会、国際化、建築技術者倫理などの問題・課題を解決するために必要な建築に関わる広い視野と高度な専門知識・技術修得を目指すとともに、国際性と実務能力を備えた建築家や技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的とする。

## 取得可能な教員免許状・学芸員資格

修士の学位を有する者で所定の条件を満たした場合、高等学校教諭の「専修免許状」を取得が可能です。専修免許状の取得には一種免許状の取得に必要な単位を修得していることが必要です。学部の科目履修生としてその単位を修得することができます。

- 高等学校教諭専修免許状(工業)
- 学芸員資格\*

※ 学芸員資格の取得には、学芸員課程の履修が必要ですが、学部の科目等履修生として履修することができます。

## 研究テーマ

意匠計画系				技術系		
設計・意匠	都市計画・都市デザイン	建築計画	保存・再生デザイン建築史	建築構造	建築生産・マネジメント	環境設備
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計・デザインの研究</li> <li>● 現代の家族の新しい住まいの可能性</li> <li>● 自然のシステムを指向した設計と計画</li> <li>● 空間研究</li> <li>● サステナブルな建築空間の研究</li> <li>● 日本の住空間に関する研究・設計</li> <li>● インテリアデザインの系譜の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まち・都市の将来像の描き方と実現手法</li> <li>● 都市構造と土地利用計画に関する研究</li> <li>● 都市のデザインマネジメント手法に関する研究</li> <li>● 持続可能なランドスケープデザイン</li> <li>● 環境と公共空間のためのランドスケープデザイン</li> <li>● 災害復興のランドスケープデザイン</li> <li>● まち・都市の防災・減災対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育施設および教育環境の計画研究</li> <li>● 地域における持続可能な生活環境の構築に関する研究</li> <li>● 建築プロダクトデザインに関する研究</li> <li>● 医療・福祉施設の安全性に関する研究</li> <li>● Environment-Behavior Studies (環境行動論)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史的な建物を残す技術や制度の研究</li> <li>● 中近世ヨーロッパの保存・再生デザインの事例研究</li> <li>● 保存再生デザインの理論と手法の研究</li> <li>● 建築や都市の歴史に関する研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地震動・地盤震動シミュレーション</li> <li>● 木造建築物の耐震設計法</li> <li>● 建築物の安全性の検証</li> <li>● 大空間の構造の座屈崩壊と地震応答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BIM(Building Information Modeling)プラットフォームの新しい建築生産</li> <li>● 建築プロジェクトマネジメント</li> <li>● 建築材料の品質評価</li> <li>● 建築材料の完全リサイクル化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次世代空調システムの研究開発</li> <li>● 空調システムにおける微生物汚染の対策に関する研究</li> <li>● 建築設備の省エネ化による不動産価値の研究</li> <li>● 建築外皮の熱解析とファサード設計への応用</li> <li>● 環境と防災に配慮した都市インフラ研究</li> <li>● 都市・地域の環境負荷低減手法の研究</li> </ul>

## 新宿キャンパス

Shinjuku Campus



### 新宿キャンパスへのアクセス

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1丁目24番2号

- JR(山手線・中央線・総武線・埼京線・湘南新宿ライン)「新宿駅」下車、西口より徒歩5分
- 京王線、小田急線、地下鉄(丸ノ内線・都営新宿線・都営大江戸線)「新宿駅」下車、徒歩5分
- 都営大江戸線「都庁前駅」下車、徒歩3分
- 西武新宿線「西武新宿駅」下車、徒歩10分

### 新宿駅西口から、地下通路で直結!

新宿駅西口ロータリーから都庁方面へと続く地下通路を歩くこと5分で、地下エントランスに到着雨の日でも傘を差さずに登校できます。



## 八王子キャンパス

Hachioji Campus



### 八王子キャンパスへのアクセス

〒192-0015 東京都八王子市中野町2665番地1

- JR(中央線・横浜線・八高線)「八王子駅」下車 北口バス乗り場⑨より西東京バス(直通)で15分「工学院大学」下車
- JR(中央線・横浜線・八高線)「八王子駅」下車 北口バス乗り場⑥より西東京バスで22分「工学院大学」または「工学院大学西」下車
- 京王線「京王八王子駅」下車 バス乗り場③より西東京バスで25分「工学院大学」または「工学院大学西」下車
- JR(青梅線・五日市線・八高線)、西武拝島線「拝島駅」下車 南口バス乗り場③より西東京バスで25分「工学院大学」下車

### 八王子⇄新宿キャンパス間のシャトルバスでラクラク通学

通学の足としてはもちろん、研究や課外活動、就職活動にも便利です。



## 入試ガイド

本大学院の入試は、一般入試、社会人特別選抜、推薦入試、外国人留学生入試に大別されます。いずれの場合も、志願者は出願までに志望指導教員と面談をし、合格・入学後の研究室受け入れの内諾を得る必要があります。各入試における出願資格・出願要件・募集研究室などの詳細は、本学ホームページにて募集要項を必ずご確認ください。一般入試・外国人留学生入試（修士課程）の過去問題集の入手方法は、本学ホームページをご覧ください。アドミッションセンターまでお問い合わせください。

### ● 一般入試・外国人留学生入試

大学（博士後期課程の場合は大学院）を卒業した人や、卒業見込者が受験する入学試験です。修士課程の場合、毎年9月と2月に試験が実施されます。出願期間はそれぞれ7月下旬と1月下旬です。なお、博士後期課程は9月に10月入学・4月入学、2月に4月入学の試験を行っています。

### ● 社会人特別選抜

特に企業などで活躍中の社会人技術者・研究者に対して大学院受け入れの道を開くため、一般入試とは別に企業などに在籍したままで入学できる社会人特別選抜を実施しています。修士課程、博士後期課程ともに毎年9月と2月に4月入学、6月に10月入学の試験を行っています。選考方法は書類審査と面接試験です。

### ● 推薦入試

#### 学内推薦入試

勉学意欲が旺盛で、所定の推薦入学基準を満たし、学内推薦を受けた本学学部卒業見込者を対象とした入試です。選考方法は、学力試験が免除され、面接試験のみとなります。

#### 公募制推薦入試

他大学の学生で本大学院における教育研究を熱望し、学業成績が優秀であると所属する大学の学部長あるいは指導教員より推薦を受けた学部卒業見込者対象の推薦入試です。選考方法は主に面接・口頭試問ですが、履修状況に応じてプレゼンテーションや特定科目の受験を指示する場合があります。なお合格した場合は必ず本大学院に入学することが条件です。

#### 東京理工系4大学の協定による修士課程特別推薦入試

工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学、東京都市大学の4大学間では、協定によって、各大学院の修士課程1専攻あたり1名を相互に推薦入学で受け入れる制度があります。

### ■ 一般入試・外国人留学生入試 試験科目と時間（2023年度実施分）

●必須 ○科目選択

専攻名	共通の試験(注)		各専攻の専門基礎試験		各専攻の専門試験		面接試験
	外国語(英語) 70分	TOEIC®スコア	数学 80分	専門基礎科目 80分	専門科目 120分	即日設計 300分	
修士課程	機械工学専攻		●	-			
	電気・電子工学専攻 情報学専攻	○		●	●	-	●
	化学応用学専攻		○	○			
	建築学専攻	-	●	-	●	○	○

注) 建築学専攻：外国語(英語)の筆記試験は課さず、出願時にTOEIC®スコアの提出が必要で  
注) 建築学専攻以外：TOEIC®スコアの提出または、外国語(英語)の筆記試験の選択(併用可)となります。

## FAQ

### Q1 志望教員への面談の予約は、どのように問い合わせたら良いですか？

A 本学ホームページに各研究室の情報を掲載しています。本学のホームページから研究室へE-mailを直接送ってください。  
研究室のアドレスが不明な場合は、アドミッションセンター (nyushi@kogakuin.ac.jp) にE-mailをいただければ、研究室に連絡いたします。

本学出身者以外の方が面談予約をする場合は、以下書類を事前にご用意ください。

- ・履歴書(外国籍の方は小学校入学から現在まで)
- ・これまでの研究概要(A4用紙1枚程度/書式自由)
- ・研究計画書(A4用紙1枚程度/書式自由)

※アドミッションセンターへ面談希望の連絡をする際は、上記書類を添付してください。  
※上記書類の他、教員が必要とする書類を追加でお願いする場合があります。

### Q2 大学は経済学部を卒業しました。建築学専攻を受験することは可能ですか？

A 異なる分野の学部学科を卒業された方も、大学を卒業(学位を取得)しているので受験することは可能です。

### Q3 大学を卒業していません。大学院を受験することはできますか？

A 事前審査を受けて受験資格が認められれば、大学院を受験することが可能です。詳細については、募集要項および本学のホームページをご覧ください。事前審査の受付期間は、出願受付期間よりも前に設定されていますので、早めに手続きを行うようにしてください。

### Q4 就職実績について教えてください

A 大学院に進学し専門分野を追究、掘り下げていく選択をすることで、将来の道が大きく開けていきます。例えば「将来、メーカーなどで研究や開発の仕事に就くことが可能となる」「将来、更なるステップアップとして就職・進学両面において世界に出て行くことが可能となる」などです。工学系の修士卒という経歴は、就職活動においてアドバンテージを生み出すことが多くあります。本学におけるキャリア・就職関連プログラム、就職実績などの詳細は本学ホームページをご覧ください。

### Q5 面接試験はどのように行われますか？

A 志願者1名に対して複数の面接委員が担当しますが、面接委員の人数は各専攻によって異なります。また、面接試験では入学を希望する専攻分野につき詳細に聴取しています。

①大学院進学目的、②大学院での学修計画と修了後の進路、③入学後の研究、卒業研究や卒業論文の内容など、あらかじめ整理しておくとうれいでしょう。

# 奨学金制度など

## 日本学生支援機構奨学金

貸与

教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与されます。学業・人物ともに優れ、かつ健康であって、大学院において研究を継続するには、奨学金の貸与が必要と認められる方に出願資格があります。なお、第一種貸与者のうち、在学中に特に優れた業績をあげたと認められる者には、奨学金の全部または一部の返還を免除する制度があります。

## 工学院大学学園奨学金

貸与

本学園創立75周年記念事業の一つとして学資不足のため修学を継続することが困難になった学生・生徒に対して、学校法人工学院大学が無利子で学資を貸し付け、卒業を可能にするために設けられました。貸与金額は月額60,000円以内、貸与期間は1年間です。

## 工学院大学学園百周年記念奨学金

貸与

本学園創立百周年記念事業の一つとして、心身健全で経済的理由によって修学困難な学生・生徒に対し、無利子で学資を貸し付け、卒業を可能にするために設けられました。貸付は在学中1回、貸付金額はその学年の学費相当額以内で、この貸付が決まると学園内の他の奨学金貸付の申請はできません。

## 工学院大学後援会給付奨学金

給付

学業意欲があるにもかかわらず、経済的な理由により修学困難な学生に対し、大学後援会からの寄付金をもって奨学金を給付し、卒業を可能にするために援助するものです。奨学金を受ける資格は、大学後援会会員の子弟で家計支持者の死亡により修学困難な方で、この奨学金により卒業までの修学が可能の方です。給付額は在学最終年度の学校納付金相当額以内です。

## 大学院進学に関する奨学金

減免

本学学部生で、3年次終了時点の成績が優秀な学生を選考し、本学大学院修士課程入学試験の合格者に対し、または、一般入試前期日程において成績上位合格者に対し、授業料の全額または半額相当額を減免します（専攻により選考方法が異なります）。

## 博士後期課程研究奨励金

減免

博士後期課程の優秀な学生を各専攻から選考し、授業料の半額相当額または、条件によって他の諸費用分も加えた額を減免します。期間は博士後期課程の2年間です。

## 博士後期課程論文投稿支援補助

博士後期課程在学学生における研究成果の国際的な発言を促進することを目的として、投稿論文の投稿に際して投稿料および公表料の一部を補助する制度があります。

## 大学院生優秀論文表彰制度

大学院生が在学中に発表し、査読付き学会誌に掲載され、特に学術的に優秀と評価された論文を表彰する優秀論文表彰制度があります。受賞者は学位授与式で表彰状が授与され、副賞として5万円が贈呈されます。

## 大学院生国際学会参加補助

国際学会において大学院生が研究論文を発表する場合は、TOEIC®のスコアに応じて交通費（エコノミークラスの往復航空運賃）を補助し、また、国内の発表でも交通費・参加登録費・宿泊費を補助しています。

# 入学金・学費など

2023年度参考 単位：円

修士課程						
種別	学費		諸会費			合計
	入学金	授業料・実験実習料・施設設備料	後援会費		学生教育研究 災害傷害保険	
			入会費	会費		
1年次	*250,000	1,050,000	*15,000	13,000	*2,430	1,330,430

博士後期課程						
種別	学費		諸会費			合計
	入学金	授業料・実験実習料・施設設備料	後援会費		学生教育研究 災害傷害保険	
			入会費	会費		
1年次	*250,000	958,000	*15,000	13,000	*3,620	1,239,620

- 注) 1. 授業料、実験実習料、施設設備料は2回に分けて納入することができます。  
2. 校友会費 (20,000円)、同窓会費 (10,000円) については最終学年の最初の学費納入時に納入します。  
本学園の卒業生および修了生の校友会費、同窓会費については別途定めます。  
3. 外国人留学生の父母または保証人の後援会入会金および会費は全額免除します。  
4. \*印は初年度のための納入金を示します。

- [ 修士課程 ] ● 本学卒業生の入学金は50,000円とします。  
● 学内推薦入試での入学者の入学金は全額免除されます。  
● 本学卒業生の後援会入会金は全額免除されます。  
[ 博士後期課程 ] ● 本大学院修士課程修了生の入学金は全額免除されます。  
● 本大学院修士課程修了生の後援会入会金は全額免除されます。

## 大学院の詳しい情報についてはこちら

各専攻の研究室情報・カリキュラム・入試制度など

<https://www.kogakuin.ac.jp/>



お問い合わせ先

アドミッションセンター 新宿キャンパス11階

Tel:03-3340-0130 / E-mail:nyushi@kogakuin.ac.jp

<https://www.kogakuin.ac.jp/>